

6-3 環境への負荷の回避・低減及び地球環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

6-3-1 廃棄物等

1. 工事の実施

(1) 切土工等及び施設の設置

1) 切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の調査方法

ア. 調査項目と選定理由

切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の調査項目と選定理由を表 6-3-1-1 に示す。

表 6-3-1-1 工事の実施に係る廃棄物等の調査項目と選定理由

調査項目		調査項目の選定理由
廃棄物等の状況	撤去建造物及び伐採樹木等の状況、建設発生土の状況、特別管理廃棄物の状況	工事中に発生する建設副産物による影響を評価するための基礎データとして必要なため。

イ. 調査期間

切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の調査期間と選定理由を表 6-3-1-2 に示す。資料調査によるため、調査期間は最新情報を入手することとする。

表 6-3-1-2 工事の実施に係る廃棄物等の調査期間と選定理由

調査項目		調査期間	調査期間の選定理由
廃棄物等の状況	撤去建造物及び伐採樹木等の状況、建設発生土の状況、特別管理廃棄物の状況	— (最新情報を入手)	既存資料調査

ウ. 調査方法と選定理由

切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の調査方法と選定理由を表 6-3-1-3 に示す。

表 6-3-1-3 工事の実施に係る廃棄物等の調査方法と選定理由

調査項目		調査方法	調査方法の選定理由
廃棄物等の状況	撤去建造物及び伐採樹木等の状況、建設発生土の状況、特別管理廃棄物の状況	文献等既存資料を収集・整理・解析する方法とし、必要に応じて現地確認を行う。	「札幌市環境影響評価技術指針」(平成12年5月、令和3年3月17日変更)に示される標準的な調査手法であるため。

出典：「札幌市環境影響評価技術指針」(平成12年5月、令和3年3月17日変更)

工. 調査地域と選定理由

切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の調査地域と選定理由を表 6-3-1-4 に示す。

表 6-3-1-4 工事の実施に係る廃棄物等の調査地域と選定理由

調査項目		調査地域	調査地域の選定理由
廃棄物等の状況	撤去建造物及び伐採樹木等の状況、建設発生土の状況、特別管理廃棄物の状況	調査地域は事業実施区域、市内の類似施設とする。	工事中の建設副産物が発生する区域全体を対象とするため。

2) 切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の予測方法と選定理由

切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の予測方法と選定理由を表 6-3-1-5 に示す。

表 6-3-1-5 工事の実施に係る廃棄物等の予測方法と選定理由

影響要因：切土工等及び施設の設置				
予測項目	予測方法	予測地域・地点	予測時期	予測方法の選定理由
建物の撤去、副産物の発生量等の予測	工事計画を基に建設副産物の種類ごとの発生量を把握し、処理・処分方法等について整理する方法とする。	事業実施区域	工事中の全期間とする。	「札幌市環境影響評価技術指針」(平成12年5月、令和3年3月17日変更)に示される廃棄物等の標準的な影響の予測手法であるため。

出典：「札幌市環境影響評価技術指針」(平成12年5月、令和3年3月17日変更)

3) 切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の評価方法と選定理由

切土工等及び施設の設置に係る廃棄物等の評価方法と選定理由を表 6-3-1-6 に示す。

表 6-3-1-6 工事の実施に係る廃棄物等の評価方法と選定理由

影響要因：切土工等及び施設の設置			
評価項目	評価方法		評価方法の選定理由
建設 種類、 工事 発生 量等 に伴う 副産物 の	環境影響の 回避、低減に 係る評価	廃棄物等の処理・処分方法を示し、事業者として実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法。	評価指標に対し整合が図られるか否かのみでなく、環境への影響について、事業者としてできる限り低減させることを考慮しているか判断ができるため。
	環境の保全 に関する施 策との整合 性に係る評 価	<評価指標との整合> 予測結果と札幌市の廃棄物処理目標との整合が図られるかを評価する方法。 ※評価指標を表 6-3-1-7に示す。	札幌市の目標値と比較し、評価を行うことで、市の施策との整合について判断できるため。

表 6-3-1-7 工事の実施に係る廃棄物等の評価指標

項目	評価指標
建設副産物	第5次札幌市産業廃棄物処理指導計画における計画目標、「再生利用率の目標値：R12年度81%以上」、「建設系廃棄物再生利用率：92%以上」とする。

2. 土地又は工作物の存在及び供用

(1) 廃棄物の発生

1) 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物の調査方法

ア. 調査項目と選定理由

土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物の調査項目と選定理由を表 6-3-1-8 に示す。

表 6-3-1-8 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査項目と選定理由

調査項目		調査項目の選定理由
廃棄物等の状況	現工場から発生する廃棄物の種類、数量、処理・処分の状況	供用時に発生する廃棄物等と現況を比較するための基礎データとして必要なため。

イ. 調査期間

土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査期間と選定理由を表 6-3-1-9 に示す。

表 6-3-1-9 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査期間と選定理由

調査項目		調査期間	調査期間の選定理由
廃棄物等の状況	現工場から発生する廃棄物の種類、数量、処理・処分の状況	— (最新情報を入力)	可能な限り最新の既存資料を対象とする

ウ. 調査方法と選定理由

土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査方法と選定理由を表 6-3-1-10 に示す。

表 6-3-1-10 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査方法と選定理由

調査項目		調査方法	調査方法の選定理由
廃棄物等の状況	現工場から発生する廃棄物の種類、数量、処理・処分の状況	現工場の実績等を収集、整理する。	現況を定量的に把握できるため。

エ. 調査地域と選定理由

土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査地域と選定理由を表 6-3-1-11 に示す。

調査対象は、隣接する現工場とする。

表 6-3-1-11 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の調査地域と選定理由

調査項目		調査地域	調査地域の選定理由
廃棄物等の状況	現工場から発生する廃棄物の種類、数量、処理・処分の状況	現工場及び市内の類似施設を調査対象とする。	同種、同規模の類似施設の実績等から将来予測等を適切に行うことができるため。

2) 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の予測方法と選定理由

土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の予測方法と選定理由を表 6-3-1-12 に示す。

表 6-3-1-12 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の予測方法と選定理由

影響要因：土地又は工作物の存在及び供用				
予測項目	予測方法	予測地域・地点	予測時期	予測方法の選定理由
施設の種類、発生量等	事業計画を基に廃棄物の種類ごとの発生量を把握し、処理・処分方法等について整理する方法とする。	施設の供用に伴い発生する廃棄物（主灰、飛灰等）は事業実施区域から発生するため、予測地域は事業実施区域とする。	供用開始後事業活動が定常状態に達した時期とする。	「札幌市環境影響評価技術指針」（平成12年5月、令和3年3月17日変更）に示される標準的な影響の予測手法であるため。

出典：「札幌市環境影響評価技術指針」（平成12年5月、令和3年3月17日変更）

3) 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の評価方法と選定理由

土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の評価方法と選定理由を表 6-3-1-13 に示す。

表 6-3-1-13 土地又は工作物の存在及び供用に係る廃棄物等の評価方法と選定理由

影響要因：土地又は工作物の存在及び供用			
評価項目	評価方法		評価方法の選定理由
施設の種類、発生量等	環境影響の回避、低減に係る評価	発生する廃棄物等の処理・処分方法を示し、事業者として実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法。	環境への影響について、事業者としてできる限り低減させることを考慮しているか判断ができるため。